

2月の実験

今回は 1000g の生ごみを 500g ずつ 2 箇所 で実験をおこなった。実験内容は、今現在使っている毛呂山のキエーロと 10 月からの 4 ヶ月間本実験のために使用を停止していた葉山のキエーロに投入して、分解スピードと土壌温度を観察した。

【投入したもの】

お茶葉、ご飯、麺類、ブロッコリー、キャベツ、柴漬け、水 300ml
(2 箇所の生ごみが均等になるようによくかき混ぜてから投入した。)

【結果】

毛呂山のキエーロは 10 日、葉山のキエーロは 11 日で消滅し、毛呂山のキエーロの方が 1 日早い結果となった。10 日目は祝日と土日を過ぎた月曜日だったため、毛呂山のキエーロはもう少し早く分解されていた可能性がある。また、葉山のキエーロの生ごみを掘り起こした際に、いやな臭いが鼻を通った。その臭いは 5 日目まで続いた。土壌温度は 17°C 前後でほとんど両方とも変わらなかった。

【考察】

今回の実験は、葉山のキエーロの方にいやな臭いが発生した。4 ヶ月間使用を停止していたため、酸素が無い状態を好む嫌気性細菌が活性化し、生ごみを分解する際に悪臭を発生させていたと考えます。一方、毛呂山のキエーロでも嫌気性細菌は存在しています。しかし、酸素がある状態で活発化し、生ごみの分解が早い好気性細菌が多く存在し、臭いの元となる化学物質もろとも二酸化炭素と水に分解するため臭いが発生しないと考えます。定期的に生ごみを投入し、土をかき混ぜて酸素を供給させることでよりよいキエーロライフを過ごせることが分かりました。

